

## 半僧坊

半僧坊には、建長寺の鎮守である神道の神、半僧坊が祀られています。1890年に静岡県の方広寺から運ばれてきた神です。本殿は、境内の北端、方丈庭園の裏を巡る小道の終点にあります。上り坂で、250段の階段を歩くと15分ほどかかります。

半僧坊へと続く小道には、12体の屈強そうな天狗像がさまざまなポーズで並んでいます。天狗とは、山に住む妖怪のような伝説の生き物です。長い鼻がある、またはくちばしと翼があるのが一般的です。半僧坊の天狗像は後者で、からす天狗です。半僧坊に随行し、建長寺を火事から守るのが主な役割です。方広寺が火事になったときに、半僧坊の像が損傷を免れたことから、半僧坊にはその力があるとされています。

半僧坊の横には展望台があり、谷間を一望できます。晴れた日には、鎌倉の海岸や富士山を望むことができます。本殿の反対側には、180段の急な上り階段があり、高台にある見晴らしの良い場所へと続いています。

秋には、歩道に沿った楓の見事な紅葉があり、本殿への小道は落ち葉で埋め尽くされます。6月上旬から7月中旬の梅雨時には、小道沿いに青い紫陽花が咲きます。